「高大接続改革の教育的効果　ー全ての若者の夢や目標を花開かせるために―」

東京都立西高等学校長、全国高等学校長協会会長　　宮本　久也

１　高大接続改革の意義

大学入試改革を軸に、高等学校教育、大学教育を変えていくという全体の方向性には賛成。

２　高等学校教育の課題

(1) 生徒の多様化・・・中卒者の 98.4%が進学する中で、能力、適性、進路希望等が多様化。
(2) 基礎学力の不足と学習意欲の低さ　　（大学入試の選抜機能の低下も原因の一つ）
(3) 知識の暗記・再生に偏りがちで、思考力・判断力・表現力等「真の学力」が育成されていない。（大学入試、大学教育も同様の課題）

⇩

高大接続改革

（各大学の個別選抜の改革、２つの新テストの実施、高等学校教育の改革、大学教育の改革）

３　２つの新テストについて

(1) 高等学校基礎学力テスト（仮称）

導入に関しては肯定的な意見が多い。
（学力を客観的に把握し、学力向上、指導改善に役立てる意味において。）

懸案事項

① テストの難易度（相当の学力差に対応した出題が可能か）
② 実施時期（指導改善に使うとの選抜を意識するのでは違ってくる）
③ テスト結果の活用方法（就職、進学の際にどのように活用されるのか）
④ 受験者の確保（テストの性格、目的によって大幅に変わってくる。）

(2) 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）

新しい時代に求められる能力を評価するという方向性は理解できるとの声が多い。

懸案事項

① 実施時期（1回目がセンター試験より早くなると対応が厳しい）
② 評価する能力（思考力・判断力・表現力をどのような形で問うのか）
③ 出題内容（合教科・合科目、総合型入試について、現状の指導実態からはかなり困難）

４　その他の課題

(1) 英語の外部検定の活用について（高校での学習実態との整合性）
(2) ＣＢＴ－ＩＲＴの導入について（スケジュール的に間に合うのか、導入までの間の対応は）
(3) 各大学の個別選抜の動向（入試改革は２つの新テストとセットで行って初めて実現する）
(4) 現行の推薦、ＡＯはどのようになるのか。

高等学校で身につけた様々な能力を評価する大学入試になってほしい。